

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成28年11月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 ウイルス・再生医科学研究所

職 名 教 授

氏 名 藤 田 尚 志

助成の種類	平成28年度 ・ 研究成果公開支援 ・ 国際会議開催助成			
事業内容	第15回あわじしま感染症・免疫フォーラム			
開催期間	平成28年 9月 6日 ～ 平成28年 9月 9日			
開催場所	兵庫県立 淡路夢舞台 国際会議場			
参加者	総数 211 名	内 訳 19カ国 オーストラリア3名、フランス1名、ドイツ2名、インド6名、イタリア1名、ケニア1名、韓国10名、スイス2名、台湾2名、イギリス2名、アメリカ4名、ベトナム4名、中国3名、エジプト1名、ガーナ1名、インドネシア1名、タイ2名、フィリピン1名、日本164名		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム抄録集)			
会計報告	事業に要した経費総額	19,383,771 円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円		
	その他の資金の出所	持田財団、テルモ財団、内藤財団、東京生化学研究会、兵庫県国際交流協会、中内財団		
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	海外招聘費	3,940,000	863,134	
	海外旅費補助	1,859,685		
	会場費	3,820,467		
	滞在費	1,993,410	65,324	
	国内招待演者交通費	182,330		
消耗品費	12,564	4,720		
会議委託料	4,056,783	66,822		
レセプション・バンケット 外	4,363,240			
その他	235,195			
当財団の助成について	今回助成をいただき大変感謝しております。補助金主には海外からの招聘演者の費用として使わせていただきました。			

第 15 回フォーラムを平成 28 年 9 月 6 日(火)～9 日(金)の四日間、淡路夢舞台国際会議場(兵庫県 淡路島)に於いて開催いたしました。文字通り日本の感染免疫学の中心をなす研究者が集結し、総力を挙げて開催する“日本発”の最先端な国際会議となりました。

本フォーラムの発足以前は、細菌学、寄生虫学、ウイルス学、免疫学等の研究者が集まり同じ場で語り合うという機会はほとんど存在していませんでしたが、「宿主・病原体相互作用」に焦点を絞りつつ、領域の垣根を越えて語り合える場として、本フォーラムは企画され、運営されました。

第 15 回フォーラムでは海外、国内からそれぞれ 14 名、12 名の著名な研究者を招待し、計 7 つのセッションで最新の成果の発表をしていただきました。参加者は計 211 名を数え、120 の一般発表(ポスター)が行われ、そのうち約 30 演題は国外からのものでした。また、学生、若手研究者のためのイントロダクトリーレクチャーを行い、細菌学、寄生虫学、ウイルス学、免疫学の基礎的な解説を通じて新たな人材の育成も行われました。国際色豊かで実りある知的・人的交流の場を提供いたしました。

21 世紀を迎えた今日でも、感染症により世界で年間 1700 万人の命が失われているといわれています。いまだに絶えない新型インフルエンザウイルスのアウトブレイク、西アフリカにおけるエボラ出血熱のアウトブレイク、日本国内でのデング熱ウイルスの伝播など感染症が大きな脅威となっております。さらに、易感染性患者の増加、多剤耐性菌の出現と増加等、数多くの問題に直面しており、感染症克服は今世紀に持ちこされた最大の医学的課題の一つと言っても過言ではありません。

本フォーラムの開催は、このような課題に対し、新興再興感染症の新たな治療法の開発基盤につながる最先端の学術発表と領域を超えた人的交流の場を提供するものであります。また、本フォーラムで発表される国内外からの最先端の研究成果は、我が国にとどまらず、国際的にも大きな発信力を示しており、本フォーラム開催の社会的意義と役割は極めて大きいと予想されます。

ほぼ毎年開催されてきた、本フォーラムは今回で 15 回を迎え、兵庫県あわじしまで開催される感染症・免疫学の国際会議として海外で高く認知されております。特に会議で報告される研究成果は最先端のものを含み、アジアをはじめとする研究者の重要な交流の場として位置付けられており、地域の国際化に大きく貢献するものと考えられます。

以上